

㊦ 手入れで町家を守ります

京町家には江戸時代から戦後までの長い積み重ねがあります。大きさや形、お住まいの様子もさまざまですが、京都市中心部には今でもたくさんの町家が残っています。しかし、維持管理についてはお悩みの方も多いと伺います。

- ・生活に合わせて改修したいが、町家の雰囲気を残せるだろうか…。
- ・だいぶ傷んできたので手入れをしたいのだが、どれくらい費用が掛かるか心配…。
- ・長屋建なので、自分のところだけ建てかえるのが難しい…。

そうした悩みに、少しでもお役に立てればと考えています。

瓦：雨漏りは町家の大敵。
長持ちさせるには早めの手入れが不可欠。



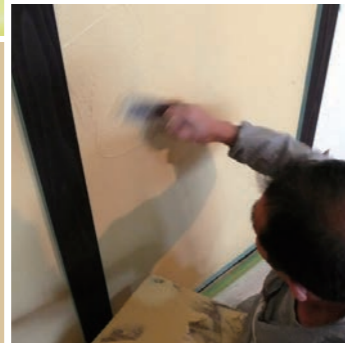
断熱：町家も断熱工事をすれば快適に。
↓ 改修にあわせて採光・バリアフリー工事も。



大工：繋ぎ梁を入替。 →
化粧で見せるための腕が問われる。



左官：漆喰壁の塗りなおし。
← 熟練工になるには10年かかる。



ゲンカンニワ：間取りを広く、天井を高く修繕。
材料も古色に合わせて修繕跡を隠す。 ↓



オモテ・ダイドコ・ザシキ：
改修跡を撤去し、ほぼ元の状態に復元。
縦に3室連なる町家独特の構造を残す。 ↓



火袋：天井に覆われていた準棟簾幕をあらわしに。 →



水廻棟・前栽：古建具にあわせて躯体を再構築。
松をはじめとした庭木も移設の上再利用。 →



改修前の外観： ↑
復元された出格子：生活のために増築されていた部分を元に戻す。
←